

## 平澤茂先生への感謝と送ることば

藤原 正光

「平澤君は何をやってもできる奴だ。是非文教大学に欲しい人材だ！」とおっしゃっていた太田忠雄先生（故人 1989 年没）のお言葉が、まず頭に浮かびます。平澤先生は太田先生と教育大学（現筑波大学）時代の同僚で、学生時代からの朋友でした。

平澤先生が文教大学教育学部の教職課程に、他の私立大学教員の傍ら非常勤講師として就任されたのが 1988 年でした。太田先生が逝去された後、教育学部に着任されたのが 1993 年 4 月でした。当時私（藤原）は、教職課程の心理学研究室に所属していたため、研究室が異なりそれ程深いお付き合いはありませんでした。しかし、平澤先生の「教育原理」や「メディア教育論」の幅広い・深い知識に裏打ちされた授業は、学生たちを「大いに魅了している」との評判を、先輩教授である石田先生（元学長）や故稲越先生から何度も伺っておりました。

そのお人柄や深い教養を知ることになったのは、2003 年 4 月教育学部心理教育課程の創設に向けて、ご一緒に準備を進めた以降のことです。教職課程からは太郎良先生（現教育学部長）、平澤先生、田村先生（元理事長）、藤原が新課程に学部内移籍し、学校教育課程の科目も担当しながら慌ただしい日々を送っていたことが思い出されます。現在は 12 名の教員と事務職員 1 名で、太郎良課程長（現教育学部長）を中心に安定した課程運営を続けてまいりました。すでに 11 年目に突入しております。

この安定した課程運営にも、平澤先生は実に大きな貢献をして頂きました。先生は教育学関連学会や文科省関係者や現職教員を中心に「広く深い人脈」をお持ちです。これは長年続けてこられた公的・私的な教育研究会から築かれたものです。心理教育課程の教員人事の際に、この人脈を通して着任された現職の立派な先生方もおられます。

また、2011 年から 2013 年まで文教大学大学院教育学研究科長を歴任され、大学院の改革に大いに貢献されました。これ以外の役職として、教育学部教授に就任された直後に人間科学研究科および教育専攻科を兼任され、附属教育研究所長や越谷情報センター長、文教大学評議員や審議会委員などの要職に就任されてきました。このように、常に文教大学の中核におられ、歴代の理事長や学長とともに大学経営を考えながら「時代に即した」大学教育の実践を行ってまいりました。

平澤先生は学生が大好きです。真顔で「僕の髪の毛はありません。これはカツラです」「僕はもうすぐ 100 歳になります。もうすぐ引退です」のご発言。いずれも新入生オリエンテーション時のお言葉です。緊張のあまり疲れた新入生の気分転換には絶妙なユーモアでした。カツラ発言の虚実は、20 数年の交流のある私（藤原）にとってもいまだに謎ですが…。卒論ゼミの学生も「カツラ」は謎。でもみんな平澤先生が大好きです。

先生の担当コマは、「メディア教育論」「生涯学習支援論」「学校教育論」「教育方法の研究」「卒業基礎研究」「卒業研究」と多岐にわたります。上述の故太田先生の「何をやってもできる奴」のお言葉を実感しております。また、学生を見る「温かな眼差し」がとても印象的な先生です。今後も平澤先生らしく、ずう～とずう～とお元気で!!

（ふじはら まさみつ 文教大学教育学部心理教育課程長）